

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0000000000		
法人名	社会福祉法人常盤福祉会		
事業所名	グループホーム万葉 堀米の里		
所在地	栃木県佐野市堀米町1270-6		
自己評価作成日	平成24年2月25日	評価結果市町村受理日	平成24年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の身体状況を把握し、地域密着型施設として、近隣の開業医との連携を取り、体調不良時の際はすぐに往診に来て頂いております。また、お客様を生活の主体者として、日々の生活に不安なく安全に過ごして頂けるような環境を提供出来る様心掛けております。お客様の要望に沿った外出支援(外食、ドライブ、お花見、お散歩、買い物)おやつ作り、ユニット調理に力を入れています。ベランダに、季節のお花を植える等、季節の野菜を使った料理やおやつを提供を心掛けています。また、認知症の進行を少しでも和らげる為に公文学習療法や音楽療法を行っています。また、排出の自立支援にも力を入れています。ご家族様の面会も頻繁にあり、ご家族様にとっても、過ごしやすい環境を提供でき、お客様とご家族様にとって、過ごしやすい空間を提供出来るよう心掛けています。1階との、合同行事も企画し、お客様に少しでも楽しい時間を過ごして頂けるよう、心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、市中心部の駅に近接し、公園や住宅地に囲まれた閑静な場所に位置している。ホームは建物の2階にあり、1階には小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、万葉福祉プラザとして「住みなれた街でいつまでも自分らしく」をテーマに地域密着型サービスの提供が行われている。法人の基本理念「①私たちは、お客様の満足をすべてに優先します②私たちは、一人ひとりの生活や思いを大切にします③私たちは、プロとして心をこめて行動します」の三つの約束に基づき、毎日の介護の場面で実践に努めている。質の高いサービスを提供するためには職員の質の向上が欠かせないことから、外部研修への参加や資格取得を奨励している。外部研修に参加した職員は、内部で伝達研修を行い、職員全体の質の向上を目指している。また、利用者一人ひとりの尊厳を考慮し、言葉遣いには最大限の配慮をしている。認知症の進行を少しでも和らげるために公文学習法を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位の生活提供と支援提供者である職員の心構えを明記した基本理念があり、職員の全体会議等で共有に努めるとともにお客様一人一人の支援内容を振り返りながら、理念の実践に取り組んでいる。	職員は、基本理念と笑顔挨拶3カ条等が書かれたプレートを職員各自が常備し、日々のケアで実践に努めている。全体会議の際、再確認し唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には、法人として入会しており、法人で実施する夏祭り等、大きな行事には地域住民の方々にも参加を呼び掛け交流を深めている。また、散歩時には近隣住民との会話を楽しみ、佐野市内の施設等利用し、地域との交流に努めている。	自治会に入会しており、広報誌の回覧を依頼している。夏祭り等の行事への参加を呼びかけ、地域との交流を深めている。今後は、近隣の幼稚園、地域の老人会や育成会と交流を図ることを考えている。	地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っていくうえで、女性会、米寿会、育成会、消防団等と交流を行い、地域住民とのつながりが、更に深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加して頂きながら、お客様との交流を地域の方々にも図って頂いている。また、運営推進会議でも、地域代表の方と話し合い、認知症の方の理解や支援を地域の方々に理解して頂けるよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、お客様、家族、民生委員、地域代表の方、市役所職員等の参加により、2カ月に1度小規模多機能と合同で開催している。会議では、利用状況や、行事内容報告の他、参加者との意見交換や地域情報等の提供があり、また、お客様に提供しているおやつや食事を実際に召し上がっていただき、意見交換を行なって支援内容の向上に役立っている。	入居者、家族、地域住民代表、民生委員、市職員等が参加し、2ヶ月に1回開催している。活動報告や職員の研修報告の他、意見交換を行い、双方向的な会議として、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には、日頃から制度や提出書類等の相談や、ホームの状況を報告している。近隣の保育園や小学校の児童との交流も検討している。今後も市との関係を更に密接にしていきたいと考えている。	市担当職員は運営推進会議に出席しており、ホームの状況、ケアサービスの取り組みの報告をするなど、日頃から連絡が密になるようにしている。市との協力関係は十分図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束ゼロ委員会参加し、身体拘束に該当する行為や防止策の把握に努めている。言葉での拘束にも配慮し、「少し待っていて下さい。」や「座って下さい。」等の抑制するような言葉は使わないように注意している。玄関等の施錠は通常は行っていないが、お客様の状況によっては、安全確保の為、やむを得ない措置とし、ご家族様の了承を得て、施錠させていただくこともある。	全ての職員が、身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束・精神的拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、法人の身体拘束ゼロ委員会に参加し、その結果を全体会議等で報告をし、趣旨の徹底を図っている。玄関等は、職員の見守りにより、日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について学ばせて頂いている。法人内の全体会議等で、虐待について全スタッフが研修を受けている。常に、注意を払い防止に努めている。		

グループホーム万葉 堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見人制度については、学習はしているが個々の必要性を関係者と話し合い、活用出来るよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や利用者規約等、ご入居前に十分なお時間を頂き、納得して頂けるまで説明させて頂いている。随時、疑問点にも答え、コミュニケーションを図らせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から、職員一人一人の名前等が分かるようにして欲しいとのご要望あり、各階出入りに職員の顔写真と名前、役職を明記した物を提示するなど、お客様やご家族様の御意見を運営に反映させている。	運営推進会議の場だけでなく、家族等の面会の際に、意見や要望の確認をしている。入居者の好み、日常のケアについての意見や要望が多い。家族からの意見要望はホームにとって大切な宝と受け止め、他の機関等にも苦情等を表せる場所がある事を説明しており、意見を運営に役立てるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、施設長や管理者に日々の業務や職員会議等の場で、意見や提案を表す機会が設けられており、職員からの提案にて合同行事等開催し、職員からの提案等を運営に役立てている。	月1回の職員会議以外にも、日々の業務についてや提案等を表す機会が設けられている。出された意見、提案は職員間で協議され、共有し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップした際、合格支援制度等、職員のやりがいを応援出来る様工夫している。ほぼ毎日、職員に声かけを行ない、労働時間も常に把握している。職員各自の向上心を育成する為、数多くの研修機会や会議を開催し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人でも多くの職員が、研修に参加出来る様、随時声をかけている。また、研修に参加できなかった職員の為に、全体会議等で研修者の報告発表を行い、職員全体のレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全体会議を1カ月に一度開催している。また、多くの委員会を開催している。その際、他部署の同業者と交流し、毎回テーマを決めて、各委員会が勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム万葉 堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には、必ずご本人様、ご家族様に、ご本人様の困っていることや、不安なこと、要望等は伺い、何よりも不安を取り除き、安心して生活して頂けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する前には、必ずご家族様にも、困っていること、不安なこと、要望等を伺い、ご家族様の不安も取り除き、サービス提供するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供前には、ご本人様、ご家族様の納得のいくまで、話し合いの場を設けている。現在、お困りの内容把握も行ない、他のサービス利用も含めた対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活をすることによって、お客様と職員との信頼関係に重きをおいて支援している。一緒に生活し、尊敬の念を持ち、お客様にご意見を伺いながら、参考にさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、日々お客様の状態の報告を行ない、生活内容も周知して頂けるようご相談、ご報告をさせて頂いている。その際、スタッフでは難しい内容等、ご家族様にご協力いただきながら、絆を深めさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様、ご家族様より、馴染みの場所や、ご本人様の趣味や趣向等把握し対応できるよう心掛けている。住まわれていた家や、馴染みの店での買い物支援を行なっている。ご家族様にも、ご都合がよろしい時には、ご同行頂いている。	入居者がこれまで培ってきた生活習慣や家族等の情報を参考にして、美容院や駅など、馴染みの場所に出かけている。通院の帰りに馴染みの場所での食事、買い物等も家族の支援を仰ぎながら努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の性格や、生活歴、年齢、ご職業等把握し、良好な人間関係が築けるよう、また会話が途絶えないよう職員も参加しながら、お一人お一人が支え合って生活出来る様支援している。		

グループホーム万葉 堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要に応じては、ご本人様、ご家族様の経過を伺い、相談・支援に励んでいる。今までの関係性を大切に感謝の気持ちを待って対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の思いや、意向の把握は、ご本人様や、ご家族様にもご協力頂き、把握できるよう心掛けている。日頃から、信頼関係を築き、遠慮なく希望を言って頂けるよう努めている。	入居者の言葉や話づらい思いを日々の行動や表情からくみ取り、把握に努めている。居室や入浴時、希望・意向の把握が出来る事が多いため、職員と二人になる時間を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等は、サービスを提供させていただき上で、大変重要な情報の為、必ず把握するようサービス提供前に必ず調査させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの一日の過ごし方、身体状況、有する力等現状把握出来る様、記録に残し、全スタッフの周知を徹底している。申し送り等を利用し、変化があった際等、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様とご家族様に希望される生活状況を伺い、ご本に様の介護度や、ADL状態を職員間にて協議し、また、主治医にも状態変化時、体調不良時等相談、報告を行ない、ご指導頂き、介護計画を作成している。	入居者の担当職員を決めて、生活状況を把握し、1ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。家族の意向やかかりつけ医の指導も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、支援内容やその結果、気付いた点を記入し、職員間で情報を共有できるよう記入している。不穏時や、体調不良時等、その方が、喜ばれた支援内容、注意を受けた支援内容等記入し、サービスの向上や計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のお客様の状態や、ご家族様の状況を把握し、ご要望に沿えるよう対応させて頂いている。往診に来て頂けるようになったことにより、体調不良時等敏速な対応や、急な通院等を施設側でフォロー出来るようになり、喜んで頂いている。		

グループホーム万葉 堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然資源や、活用可能な物等の把握に努めている。お客様の身体状況を把握し、安全かつ豊かな実りある生活を過ごせるよう佐野市の地域資源を活用させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、お客様やご家族様の希望されるかかりつけ医との関係を大切にしている。ご高齢なため、急変時対応等にも、主治医が夜間も対応して頂ける時間帯も提供出来るようになった。	入居者や家族の希望するかかりつけ医との関係を大切にしている。ホーム近隣の医師が急変や夜間診療等が可能な事もあり、変更する入居者も多い。通院は家族対応だが、緊急時には職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一階の小規模多機能に所属される看護師に、日常でとらえた情報や気づきを相談している。お客様に適切な受診や、看護を受けられるよう支援しています。主治医にも、電話にて相談し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様の入退院時は、必ず主治医・ご家族様・看護師・その他関係者と情報交換や相談に努めています。また、そのような際を考慮し、病院関係者との良好な関係作りを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期への支援については、早い段階からご家族様よりご意見を頂いている。事業所で出来ることを十分に説明し、方針を共有できるよう話し合うようにしている。ご家族様のご希望により、主治医の協力を得て看取りも行なっている。看取りについては、全スタッフが方針を共有しながら支援できるよう取り組んでいる。	看取りに関するマニュアルを用意している。これまでも数件の看取りを行った。家族からの要望があれば、主治医と相談しながら、小規模多機能型居宅介護の職員の協力を得て、家族・職員が方針を共有し支援できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	お客様の急変時対応マニュアルを作成し、全スタッフが適切な対応が出来るよう訓練を定期的に行なっている。実際に起きてしまった事故内容も二度と起きないように必ず会議にて話し合い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は、併設している小規模多機能と年2回実施している。夜間想定も実施している。施設内には、スプリンクラーが設置されている。また、災害時対応として、水や缶詰、震災にも対応できるよう対策グッズも用意している。	消防署立会いで年2回、消防訓練・夜間想定訓練を実施している。その際、消火器の使用方法等の指導も受けている。また、定期的に業者による消火機器の点検を実施している。災害時の連絡網は職員のみで、地域の方は入っていない。	災害時には、地域の方との連携が必要なことから、ホームの災害時対策に関する理解や、訓練への参加、連絡網に加わってもらうなどの協力依頼を行うことを期待したい。また、職員間で非常時の機器使用の再確認を行うことも期待したい。

グループホーム万葉 堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の人格や、尊厳の保持に努めている。言葉かけには常に心を配り、尊敬の念を持って支援させて頂いている。節度ある言葉遣いを心掛け、羞恥心にも配慮した支援に努めている。	管理者は常に「入居者の立場に立って考える」と指導している。年長者として敬意を払い声かけをするように努めている。名前は基本「さん」付けで呼んでいるが、臨機応変に過去の職業等の呼び名(社長や先生など)で呼ぶこともある。援助が必要な時も、さりげなく自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の思いやご希望を聴きだし、出来る限り自己決定して頂けるように支援させて頂いている。ご自分の意志による判断であれば、お客様皆様に喜んで頂けると思い、お話を伺わせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースを大切に支援させて頂いている。一日一日を大切に、決して職員側の決まりや都合を優先することがないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目等は、ご家族様にご協力頂き、必要な衣類等衣替えて頂いている。また、お一人おひとりの性格や生活スタイルを重視し、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、現在ミールケアさんに委託している。副食類は、真空パックにて調理された状態で毎日届けられている。主食、味噌汁は、職員がユニット内にて調理している。お客様には、主に下膳や、食器洗い等スタッフと共に行なって頂いている。スタッフもお客様と一緒に食事させて頂いている。	食材、副食類は業者に委託しているが、主食、味噌汁はユニット内で調理している。職員も同じテーブルと一緒に食事をし、下膳や食器洗い等は入居者と一緒に行く。食べたい物の希望を聞き、一緒に買い物に行くなど、食事を楽しむ環境作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食必ず記録に残している。水瓶量も、一日を通じて確保出来る様、10時、15時、お食事の際、その他も細々と水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人おひとりの口腔状態を確認している。ご本人の力に応じた口腔ケアは、就寝前に必ず行なっている。		

グループホーム万葉 堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を防ぐよう、お一人お一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。羞恥心にも配慮して、プライドを傷つけないよう配慮した支援を行なっている。	可能な限りトイレで排泄出来るように、チェック表を用いて、排泄パターンを把握し、声かけする等の工夫をしている。自力排泄困難な入居者は主治医の指示や性格、入居前の生活状態を勘案して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や、及ぼす影響を把握し、センナ茶や散歩支援にて、お一人おひとりに応じた予防を行なっている。ご高齢の為、また歩行が困難な方にも、センナ茶や主治医に下剤を処方して頂いて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴出来る様な態勢をとっている。お客様の体調や、お気持ちを考慮し週に2・3回程度の入浴を行なっている。また、変わり湯などで、入浴が楽しめるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や希望を大切に、曜日や時間帯を決めず、週2～3回の入浴支援をしている。季節に合った入浴剤や果実を入れるなど、入浴が楽しめる工夫をしている。入浴拒否の強い入居者には、タイミングを計りながら支援している。また、同性介助にて心情の配慮も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠の提供を行なっている。室内の気温・湿度・寝具の状態も常に清潔な物を使用して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に内服薬の目的や副作用、用法、用量についての書類を確認し、理解しています。服薬支援後の状態把握に留意しています。変化がある際は、すぐに主治医に相談し指示をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の生活歴や残存能力を把握し、適した役割を担って頂いている。嗜好品も持ち込んで頂き、ハリのある生活や喜びのある生活をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は、力を入れている。お客様の希望や、スタッフのアイデアを活かしながら、可能な限り外出出来るように支援している。ドライブ・買い物・花見・コーヒーを飲みに行く等、地域の方々と協力しながら支援している。	希望にてドライブ、買い物、花見等の外出支援を行っている他、日常的に近隣の公園や駅周辺の散歩に出かけている。食事に行くレストランでは、予約や席の配慮等、地域住民の協力を得ている。	

グループホーム万葉 堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の好きなように使用できるお金を、預り金と言う形で頂いている。希望時は、個人的な物の購入や、外出の際の支払いに使用させて頂いている。スタッフも、ご本人がお金を持つことの大切さは理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様自ら電話を利用して頂いている。手紙のやり取りも自由に行なって頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の2階にあることから、日当たりも良く、周辺の眺めも良いため、開放感もあり明るい空間が提供できている。換気や、気温・湿度等適切に管理している。お客様も、窓際に置いたソファにて寛がれたり、車椅子上でも日向で日光浴をされたりと、気持ち良さそうに過ごされている。	居心地の良さや、心身の活力を引き出すための共有空間はホームの2階にあり、季節の花が飾られ、日当たりや眺めも良く、開放感に満ちている。匂いや音もなく適度な明るさの中で、公文学習法をしている入居者もいる。ベランダにも花が植えてあり、入居者が楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中でも、窓際などは、お独りで日光浴を楽しまれていたり、気の合うお客様同士で、ソファに腰掛けお話しされたり、自由に寛がれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みの物をなるべく多く持ち込んで頂けるよう説明しており、ご家族様も大変ご協力いただき、馴染みの空間が提供できている。	ベッド、布団、タンス等は備え付けのものだが、自宅で使い慣れた物を持ち込むことも可能である。馴染みの家具を持ち込んだり、家族の写真を飾るなど、居心地よく過ごせるプライベート空間づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、お客様のニーズに合わせたサービスが提供出来るよう安全に、かつ自立した生活が出来るように、個々の居室も工夫している。着替えが出来る方は、衣類を見える位置に吊るし、毎日好きな衣類を身にまとわれている。日に、数回着替えることもある。		